



1



3



2

1/カメたちは年間を通じてビーチを訪れるが、海が荒れ、波が高い日は、あまり現れない。この日は、手前に1頭、後方の岩と岩の間に1頭が、気持ちよさそうにお昼寝中。カメたちは甲羅を乾かしているのだ 2/カメがビーチに上がってくると、護衛員が黄色いテープを張り、観光客がカメに近づきすぎないように注意する 3/ジョージ・バラスさん。ウミガメの研究者であり、カメたちをこよなく愛している。ウミガメについての情報はURL www.turtles.org

ネイチャー編

ノース・ショアのビーチで ウミガメ、お昼寝中

text by Seto Miyuki, photographs by Takagi Ichiro

ハ レイワを通り過ぎ、さらに北上して5分ほど走ると現れるラニアケア・ビーチ。一見島のどこにもある小さなビーチだが、ここ数年、人が集まるようになってきた。そのお目当ては、アオウミガメである。

ハワイでホヌと呼ばれるアオウミガメは、絶滅の恐れがある種としてアメリカ合衆国とハワイ州の法律のもとで保護されている。そのカメたちが、なぜか1999年ごろから浜に上がり始めた。人を恐れることもなく、しばらく昼寝をすると、また海へ帰っていく。

現在、このカメたちを守るために、11時頃から日没までの間、ボランティアの「カメのガードマン」が、訪れた観光客らにアオウミガメの生態が記されたパンフレットを配布したり、カメたちに触れないよう注意を呼びかけている。そのリーダー、ジョージさんは、

「なぜカメたちがこのビーチを気に入ったかはナゾなんだが、野生の彼らが人を恐れることもなく、のんびり昼寝しているなんて、すばらしい光景だ。オアフ島はずいぶん都会になって開発されているけど、こんなカメたちに出合えるなんて、ハワイの自然の偉大さにあらためて敬服させられるよ」

合計18頭のカメが、定期的にラニアケア・ビーチにやって来ることがわかっている。特に夏の静かな午後は出現率が高いそうだ。野生のカメの無防備な寝顔なんて、ほかではそうそう見られない!

GLOBE TROTTER TRAVEL MAGAZINE

極上ハワイ

The Finest of Hawaii

地球の歩き方

MOOK

2006-07

ハワイの恵みに抱かれて

ハワイ文化の担い手が語る「アロハの心」
豊かな時間を過ごすテーマ別ステイ・プラン
大自然を味わいつくすハワイアン・ダイニング